

## 1 目的

### (1) 指導力向上

教科指導の充実を図るために、専門的な指導を通して、教員個々の資質向上を図ります。

### (2) 豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

## 2 内容

### (1) 指導力向上

教科指導について、美和地区在住の滝本清三先生（木田塾道場 尾張合気会 会長 八段）を講師に招き、教科指導（保健体育）で武道指導（合気道）として体育科教諭を中心に2年生女子を対象にして実施しました。（12/6・7・9）

### (2) 豊かな人間性の育成

ア 命の大切さや尊さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、伊藤幸子氏（名古屋医専教務部主事）を講師に招き、命の授業を実施しました。

（11/24・25）

イ 生徒が、本格的な合唱や演奏を聴くことを通して感動を味わうことや、市民ボランティアを中心とした合唱団や地域の演奏者の方々と場を共有し、地域の人々の温かい心に触れることで、豊かな心の育成を図るために、美和地区在住の照喜名純子先生（照喜名一男先生 奥様）を講師に招き、学校運営協議会のバックアップのもとで本校の卒業生や地域の合唱団・演奏者を招請し、音楽コンサート「2022音楽の集い」を実施しました。（12/8）

## 3 評価

### (1) 指導力向上

本校教員は定数42名中、教員経験年数6年以内の少経験者が10名（24%）と約4分の1を占めています。若い教員をはじめとして経験年数が少ない教師集団です。

新学習指導要領のもと、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が重要視されています。本年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の制限のもと、各教科で授業展開を工夫して取り組みました。さらに各教科指導の充実のために教員の授業力アップを図る必要があります。



【保健体育 武道指導（合気道）】

### (2) 豊かな人間性の育成

ア 「命の授業」は、毎年1年生を対象として継続実施しています。「人間の生命誕生のプロセスやその神秘性、母体内でどのように成長し、この世の中に赤ちゃんとしてどのように誕生したのか」をテーマにしています。講師の伊藤先生の指導は、豊富な指導経験のもと大変丁寧で分かりやすく、子どもたちに生命誕生のすばらし

さや命の尊さを教えてください。また、生徒の関心・意欲を高め、個々への対応として2日間でクラスごとに7クラスの授業を実施していただき、さらに助手として多くの学生を連れて指導に当たっていただきました。

生徒の感想では、「父親と母親がいて誕生した、今の自分はかけがえのない生命の一つであることが分かりました」「大変な思いをしてお母さんが自分を産んでくれたことに感謝し、大切にしたい」など、命を大切にしようとする声が聞かれました。また、「周りにいる友だちも自分と同じであり、自分の命を大切にすることはもちろんだが、友だちやすべての人々の命も大切にしたい」「この世の中の生物の命も大切にしたい」など自他を大切にする気持ちを高めるよい機会となりました。

イ 照喜名純子先生の声かけや公募により集まった市民合唱団の方々は、9月より毎週練習を積み重ねてみえました。また、指揮者や各楽器の演奏家の方々は、当日の2日前より集まって音合わせを行い、本番の成功に向けてリハーサルを繰り返してみえました。

「2022音楽の集い」では、交響曲第9番「合唱付き」 第四楽章「歓喜の歌」が大ホールに響き渡りました。参加した1年生の生徒・保護者ならび市民合唱団・演奏家の関係者の身体と心を揺るがすものでした。

合唱団の中には2年生の在校生も2名加わっていました。また、ソロパートを担当された4名の歌手の皆さんは、3名が美和中の卒業生であり、コンサートの中で生徒に向けて、温かい言葉でメッセージを送っていただきました。最後は、全員でオーケストラの伴奏で美和中校歌を斉唱しました。調和のとれた歌声や演奏が、この場に集った方々の生徒に向けた温かい心のメッセージとして心に残り、豊かな心が通い合う街づくりの一助となりました。



【 市民合唱団の練習 】



【 2022音楽の集い 】

#### 4 課題

特色ある学校づくり推進事業により、生徒は通常の教科授業・学校行事では体験できないことを学ぶ機会をまた、教師は指導力を向上する機会を得ることができました。ただし、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止のために授業や部活動、学校行事が様々な制約のもとで行われました。そのため、制約に対するつらさを抱えた生徒が年々増えてきています。日々変化する社会的な事象や問題でつらさを抱える生徒にも気づき、配慮、支援できる学校体制や教員集団を作り上げていくことも必要です。

今後も、学びや学んだことを活用する場を通して、自己の成長が実感できる場を工夫して作りだし、生徒の自己肯定感を高め、主体性を伸ばしていくことが課題であると考えます。

次年度以降も引き続き、生徒や保護者・地域からの信頼を得るために、教育活動のさらなる向上や発展を目指して「当たり前」のことが「当たり前」のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。